

[習志野名木と珍しい里山桜を鑑賞] 2025年4月8日

NPO 法人千葉県森林インストラクター会
森池 正典



コース：京成大久保駅～誉田八幡神社～浜田川源流～実籾本郷公園（食事）～旧鴛田家住宅～実籾本郷公園桜広場～大原神社～京成実籾駅（解散）

京成大久保駅 集合

誉田八幡神社（陸軍栗林少将 記念碑）

栗林少将は映画[硫黄島からの手紙]でバロン西とともに登場した。日本軍守備隊総指揮官。監督クリント・イーストウッドはクランインの前にここを訪れた。

アカガシ (習志野名木52, 53, 54) ブナ科 コナラ属 落葉高木 2年生
和名は材が赤いため 山地に多い 樹皮は老木になると割れ目が目立つ
葉は全縁 材は非常に硬い 木刀 船の櫓や舵 ゲートボールのスティック
昔は牛車の車輪 戦時中は砲台の台

八幡公園（騎兵第一旅団司令部跡）

司馬遼太郎[坂の上の雲]にも描かれた習志野騎兵旅団司令部跡地。〔習志野騎兵旅団発祥の地〕の碑がある。軍馬碑3基。日露戦争時、秋山好古旅団長は8千の兵で当時世界最強のコサック騎兵10万と戦い日露戦争の勝利に貢献。弟は秋山真之 海軍作戦参謀 日本海海戦でバルチック艦隊を撃破する作戦を立案

ユリノキ （習志野名木56） モクレン科 ユリノキ属

別名：チューリップツリー、ハンテンボク

葉の形が由来。花はチューリップに似た黄緑色。花蜜甘くカラスの大好物。

明治9年に新宿御苑に初めて導入。

マテバシイ （ブナ科 マテバシイ属）

2年成 ドングリ 砲弾型 生食可 縄文人の食糧

千葉県では薪炭、海苔栽培（海苔ひび）に利用

メタセコイア （習志野名木58） ヒノキ科 メタセコイア属

別名：アケボノスギ 生きた化石。

和名のアケボノスギは英名の Dawn Redwood の訳から。落葉針葉樹。スギ科メタセコイア属（メタセコイア属は1種1属）。葉や枝が対生するのが特徴。このため羽状複葉のように見える 200万年前に絶滅したと考えられたが1945年揚子江支流で自然木（水杉すいさん）が同種と確認され、[生きた化石]として紹介。側枝に2列対生し側枝も対生するので羽状複葉に見える。アメリカ西海岸に生息するセコイヤスギに似ているが違う点も多くあるのでメタセコイア（変わったセコイヤ）と名付けられた。

実籾小学校

斜面： アオキ ウラシマソウ タチツボスミレ

浜田川源流 傾斜面湧水に源を発しマリNSTADIAム横の東京湾にそそぐ。

ウコン

和名前はショウガ科ウコン属の多年草の[うこん]の根から染めた色に似ていることから、花弁15=20枚の大輪の八重桜。花弁は葉緑体をもつが緑色が弱く淡黄色。緑色が混じることがあり咲き終りにはかなり赤身を帯びる、数百種の品種で唯一黄色の花を咲かせる。ソメイヨシノの後に満開になる。

実籾本郷公園

鴉田家は江戸時代実籾村に建てられた旧家で東北南部地方に多く見られる曲家と呼ばれる形式で関東地方で現存している例は少ない。名主の家として使われた規模の大きい民家。

入会地：村や部落などの村落共同体（入会集団）が総有するまたは共同利用が認められた土地

① 入会山：薪炭・用材・肥料用の落ち葉を採取した山林

② 草刈り場（馬草場）：まぐさや屋根をふくカヤなどを採取した原野や河原

タギョウショウ （習志野名木49）

クロマツの台木の上にアカマツを接いで仕立てた園芸品種の常緑針葉樹。その姿は根元近くから多くの幹を箒状に出し、まるで洋傘を開いたような倒円錐形の樹幹をつくる。株たちした姿は美しく日本庭園などによく植えられている。NO49は鵜田家住宅内にあり住宅とのコントラストが美しい。樹齢は7～80年ほどで女性的な柔らかいイメージを念頭に秋頃に抜枝や古葉おとし（もみあげ）をする。

白松

中国北西部原産。日本には自生しない。
長寿の木。神聖な木として宗教施設、霊園に植栽されることが多い。
20年たつと樹皮から白い分泌液をだし、その後剥離しプラタナス、カゴノキのようになる。

モウソウチク

中国原産。約250年前に薩摩藩に移入された。節は1輪で稗鞘輪の下側を取り巻くように白い蠟状物質（チロシン）が付着している。ドーナッツ状の成長帯。チロシンというアミノ酸は軟らかい筍から固い節を作るのに必要なリグニンの材料になる。モウソウチクは花が咲いた後莖も根も枯れる。マダケ、ハチクは莖だけかれる。徳川吉宗の好物（煮つけ）

アセビ ツツジ科

花は下向き実は上向き
花が終わると柄が上に曲がって伸びる 少しずつタネを飛ばす工夫
実を食べると足がしびれることから[足しびれ]が詰まった

実籾本郷公園桜広場

アメリカ バラ科

1912年アメリカに渡ったソメイヨシと別種のサクラからアケボノが生まれた。1965年 交雑種の実生のサクラを神代植物園が逆輸入して接ぎ木して育てた。すでにアケボノがあったので**アメリカ**と命名した。その中の1本がアメリカと違う花をさかせるサクラがあり1991年ジンダイアケボノと命名した

カントウタンポポ キク科 日本在来種

関東中心と本州の中部。 総苞片が反り返らない。
種子をつくるには受粉が必要（2倍体の遺伝子）。開花時期 3～5月
夏の間葉を落とし秋より再度葉をつけれる賢い生存戦略。

セイヨウタンポポ 明治時代に食用として輸入

日本全国に分布。総苞片が反り返る。受粉しなくても繁殖できる（3倍体の遺伝子）。一年中。群れなくても生存可能。

大原神社

アカガシとクロマツ （習志野名木62） マツ科 マツ属

大原神社のNO62はアカガシとクロマツががっばりと根元から抱き合っている姿は「連理の枝」を連想させる。一体化した幹周りは3・40mにもなる

タブノキ （習志野名木61） クスノキ科 タブノキ属

海沿いに自生する常緑高木。別名イヌグス

表面に光沢がある葉や樹皮には水と混ぜると粘液となる成分が含まれ、線香の糊料などに使われる。樹皮にはタンニンを含み、伊豆ではその煎汁で織物や魚網をとび色に染めるのに利用され、なかでも黄八丈は有名。

NO61は縁結びの神様とされる大原神社の境内中央に位置し2本が並ぶ姿から夫婦タブノキと呼ばれ参拝者の目を引き心とませる木である。

キンギョバツバキ

葉の先が三つに割れ金魚のしっぽのように見える。

突然変異によって生まれたヤブツバキの園芸種。江戸時代にはあった。

ムクロジ ムクロジ科 ムクロジ属 無患子（子供が患うは無い）

東アジア、東南アジア、インドに分布。寺社に多く植栽される。10枚前後の偶数の小葉をもつ大型の羽状複葉。雌花には将来種子に育つ3つの袋があるが実際に育つのは1つのみ。2つは萎んでつぶれ柄の傍らに小さな傷痕として残る。サポニンを含んだ果皮は石鹸に、種は羽子板の羽根の黒い玉に利用された。サポニンの泡は消えにくいので昭和50年位まで化学泡消火器として使われていた。

青面金剛

もとは病をはやらせる悪鬼だったが、改心して病を駆逐する善神となる（南北朝時代の仏教説）。道教思想に由来し日本の民間信仰である甲申信仰の中で独自に発展にした尊格である。甲申講の本尊として知られ三尸をおさえる神とされる。

馬加（まくわり）村

1889年（明治22年）馬加村と武石村が合併して幕張となる。1954年千葉市編入時、馬加消滅 京成幕張駅 青木昆陽 甘藷試作の地

縄文海進

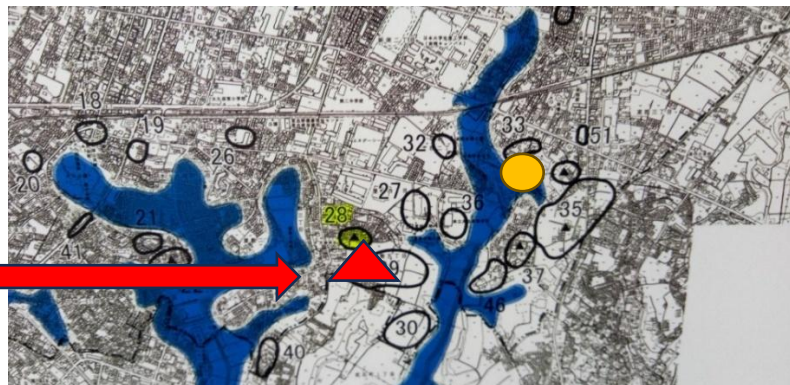
最終氷河期の最盛期には海面は現在より120m下にあった。その後最終氷期1万9千年前から温暖化による海面上昇が始まった。日本では1万6千年前の縄文時代の始めにあたる。約6500年前の海が最も広がった時期には海面が現在より2～3m高くなったとされ湾がもっとも内陸部まで入り込んだ。

約3000年前から約1000年前までは大半の地域が陸地となり、浸食作用により河川ができ湿地、沼地のような低湿地帯をつくった。

最終氷期（深い谷形成）→ 縄文海進（海が侵入）→ 海退 → 浸食、河川形成
（参考）谷津の呼び名： 東京：谷戸 東北：谷地



旧鵜田家



屋敷古墳



2019年屋敷古墳で縄文時代の人骨発見

参考文献：

〔樹に咲く花〕 山と溪谷社

〔身近な植物に発見！ 種子たちの知恵〕 多田多恵子

参考資料：東洋経済 ONLINE 注目された〔八潮〕の地盤、氷河期から続く変遷